

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4078号 2017.12.14 発行

### 介護報酬0・5%程度引き上げ 障害福祉もプラス 共同通信 2017年12月14日

政府、与党は13日、介護保険サービス事業所に支払う介護報酬について、来年4月の改定で0・5%程度引き上げる方向で最終調整に入った。障害福祉の事業所に対する報酬も0・3～0・4%程度プラスとする方向だ。週内にも事実上決着させ、来週の予算編成で正式に決める。

報酬を引き上げると、税金や保険料、利用者負担もその分増えることになるが、サービスの質向上や事業所の経営安定化が期待できる。安倍政権は「介護離職ゼロ」を目標に介護の受け皿確保や職員の待遇改善を進めており、引き上げが必要だと判断した。

### 診療報酬と介護報酬、同時改定の大枠固まる

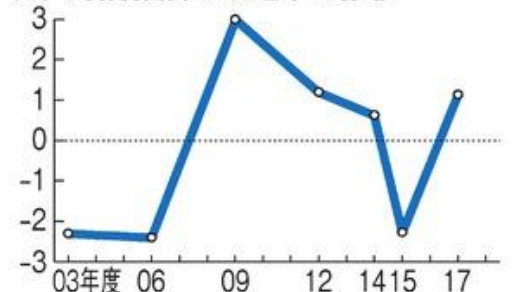
朝日新聞 2017年12月14日

(%) 診療報酬「本体」の改定率の推移



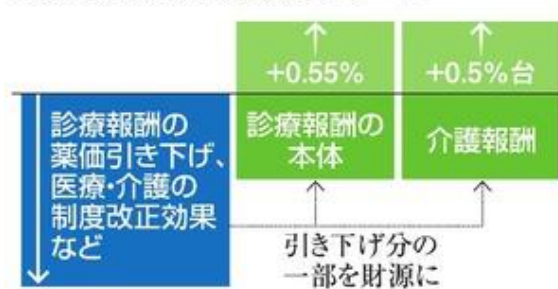
14年度の改定率は消費増税対応分を含む

(%) 介護報酬の改定率の推移



06年度は05年10月の改定分も含む

同時報酬改定の財源のイメージ



介護報酬の引き上げ幅が0・5%台になる見通しとなり、来年度予算編成の大きな焦点だった介護と診療報酬の同時改定の大枠が固まった。政府・与党は、診療報酬のうち診察料や入院代などの「本体」部分を0・55%引き上げることも決定。ともに診療報酬の一つである「薬価」を大幅に引き下げて捻出する財源などを回す。

診療報酬は2年に1度見直される。本体と薬価を合わせた報酬全体の改定率は、2回連続でマイナスとする。医師の診察料などにあたる本体は6回連続のプラスとし、国費で約600億円の負担増となる。

安倍政権が最も神経を使ったのが、この本体の引き上げ率だ。前回2016年度の改定率は0・49%。自民党の支持団体である日本医師会をはじめとする医療団体にとって、不満が残る結果だった。

首相官邸や自民党は引き上げを強力に働きかけられ、社会保障費が膨らみ続ける中でも、

「前回超え」の0・55%を容認した。

介護をめぐっては、安倍政権が「介護離職ゼロ」を掲げ、20年代初頭までに介護の受け皿を50万人分整備するとしているが、約25万人の介護人材が不足すると見込まれている。

このため、介護報酬について自民党の厚労族議員から「施設があっても人材がいなければ本末転倒だ」などと引き上げを求める声が上がっていた。政府・与党はプラス改定とすることで、介護重視の姿勢をアピールする狙いがある。

日本医師会への配慮から引き上げ幅は診療報酬本体より抑える方針だが、遜色のないプラス幅になる見通しとなった。

これらの報酬改定に加え、来年度は障害者支援サービスの公定価格となる「障害福祉サービス等報酬」も3年に1度の改定となる。これについても引き上げる方針で、引き上げ幅は介護報酬より低くする方向で調整している。

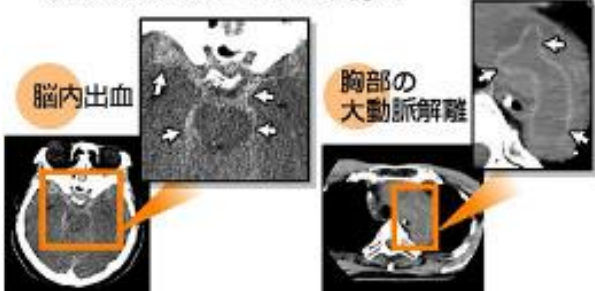
政府・与党は週内にもそれぞれの改定率を固める。22日に予定される来年度政府予算案の決定で正式に決まる。

## 大阪市内の「死因不明」全遺体、CTで診断…府が搭載車を全国初導入へ

### 大阪府が検討している「死亡時画像診断」の流れ



### ② CT画像から脳出血や大動脈解離、骨折などを診断 (画像は兼見敏浩・三重大学教授提供)



大阪府は府監察医事務所（大阪市中心部）で、通常1日2人の監察医（非常勤）が、大阪市内で見つかった年間約1100人の遺体を解剖している。だが、府内の死亡者数は2016年の約8万4000人から、40年には約1・4倍の約12万人に増えると予想され、府は体制の見直しに着手。検討組織の有識者から、撮影などにかかる時間が15分程度で済むCTの導入を求める声が上がっていた。

CTなどの画像を使った死因診断は「死亡時画像診断 (Autopsy imaging)」と呼ばれ、外見からはわからない脳出血や大動脈解離、骨折などを見つけられる。死因を特定できれば、孤独死や突然死などに至った経緯を正確に把握し、予防策につなげることが可能になる。

また、虐待による頭部の出血や手足の骨折などを把握したり、大規模災害時などに現場へ派遣して、死因や身元を特定したりする目的でも活用できる。据え置き型のCTによる

読売新聞 2017年12月13日

高齢化で亡くなる人が増える「多死社会」に備え、大阪府は、体内を画像化するコンピューター断層撮影（CT）装置を搭載した専用車を導入し、大阪市内で死因がわからない全ての遺体の診断に乗り出す方針を固めた。

2019年春の運用開始を目指し、孤独死などの対策のほか、虐待の見逃し防止や、南海トラフ地震などの災害犠牲者の死因特定などに役立てる。

警察が「事件性なし」判断、死因不明のまま…

一人暮らしで亡くなるなどし、警察が事件性なしと判断した遺体は、死因不明のまま、解剖されずに火葬されるケースが多い。大阪府や東京都などの一部の自治体には、法医学専門の医師が行政解剖を行う「監察医制度」があるが、解剖できる遺体の数は限られる。

死亡時画像診断は東京都も実施しているが、専用車の導入は全国初という。

府の計画では、同事務所の駐車場に専用車1台を常駐させ、監察医が死因不明と判断した全ての遺体をCTで撮影。画像診断では死因が特定できない遺体だけを解剖に回す。CTによる画像診断で、3割程度の死因はわかるという。

#### 解剖率、わずか2～3%…「日本は死因不明社会」指摘も

国内での死因究明制度を巡っては、専門家から不十分との声が強い。解剖すれば死因の7～8割が判明するが、国内の解剖率は2～3%に過ぎず、海外の先進国の10分の1程度。「日本は死因不明社会だ」とも指摘されている。

日本では遺体に対する畏敬の念が強く、解剖に抵抗を感じる人が多いことも背景にある。厚生労働省の検討会は2011年、「死因不詳や『心不全』とされてきた事例に対し、より正確な診断が可能な画像診断の活用を積極的に図るべきだ」と提唱し、各地で徐々に取り組みが始まっている。

放射線科医らでつくるAi情報センター（東京）の山本正二・代表理事は「正確な死因がわからなければ医療の改善につながらない。各地の自治体でも画像診断の取り組みを進めてほしい」と話した。

#### 知的障害者のスポーツの祭典、走ってPR 神戸 神戸新聞 2017年12月14日

トーチを掲げて走る選手ら＝神戸市中央区下山手通4



知的障害者によるスポーツの祭典「スペシャルオリンピックピクス（SO）日本夏季ナショナルゲーム」（2018年9月、愛知県）に向けて、大会をPRするトーチランが13日、神戸市内であった。出場選手と家族、ボランティアら計約100人が寒さにも負けず笑顔で駆け抜けた。

SOはオリンピックやパラリンピックと同様、夏季と冬季の世界大会がある。18年9月の愛知県の大会では、

19年にアラブ首長国連邦のアブダビで開かれる夏季世界大会に出場する日本代表を選ぶ。

兵庫県庁前での出発式で、ボウリング選手の樋口誠さん（尼崎市）ら3人が出発を高らかに宣言。金沢和夫副知事が点火したトーチを掲げ、神戸市長田区の鉄人28号モニュメント前まで、8区間計7・4キロを互いに声を掛け合いながら走った。（前川茂之）

#### 障害者解雇 行政責任の指摘相次ぐ 広島県自立支援協議会

山陽新聞 2017年12月13日

障害福祉の在り方を検討する広島県障害者自立支援協議会が13日、県庁で開かれ、一般社団法人「しあわせの庭」（福山市曙町）が経営破綻し福山、府中市の就労継続支援A型事業所の障害者106人が解雇された問題で、委員から行政の責任を問う意見が相次ぎ、県は国に制度改正を求めていく考えを示した。

委員から、同法人の経営状況のチェックが不十分だったのではないかと指摘があり、県は「（同法人が示していた）経営改善案が本当に有効なのか精査することには限界があった」と説明。また再発防止に向けて「今後どのように事業所の質を確保していくのか」との質問があり、県は「新規参入基準をより厳格化するよう国に制度改正を求めていきたい」とした。

#### 山梨の障害者実雇用率、改善も1.95% 民間企業全国40位、法定に届かず

産経新聞 2017年12月14日

山梨労働局は12日、今年の「障害者雇用状況」の集計結果を発表した。民間企業に雇用されている障害者数（短時間労働の雇用障害者は0・5人で計算）は1709人で、前年比3・9%増となり、5年連続で過去最高を更新した。

雇用障害者数を、障害者の就業が難しい業務を除いた常用の従業員数（8万7805人）で割った「実雇用率」も、同0・03ポイント上昇の1・95%と改善した。

しかし、全国平均を0・02ポイント下回り、全都道府県の順位も、前年の32位から40位に後退。常用雇用者に障害者が占める割合として、国が事業者に義務づけている「法定雇用率」の2%には達しなかった。

一方、法定雇用率を達成した事業者数は326社で、全体の57・7%（前年比1・4ポイント上昇）。全国平均の50%を上回った。

調査は、6月1日時点の身体・知的・精神障害者の雇用状況について、県内に本社を持つ従業員数50人以上の全企業565社を対象に実施した。

雇用障害者の内訳は、身体1109・5人（前年比0・4%増）▽知的413・5人（同9・2%増）▽精神186人（同15・2%増）であった。

一方、県や市町村など地方公共団体の実雇用率は2・35%で、法定雇用率の2・3%をやや上回った。ただし、達成した機関の割合は79・4%で、全国平均（88・8%）を大きく下回った。

同労働局は結果について「法定雇用率に達成していない企業が全体の実雇用率を押し上げており、底上げが課題だ」（職業対策課）と指摘している。

調査によると、民間で実雇用率が特に低かったのは、規模別では50～100人未満の1・71%、業種別では情報通信の0・9%、電気・ガス・熱供給・水道の1・03%などだった。

## オムロン太陽が大賞 厚労省「グッドキャリア企業」 別府市



大分合同新聞 2017年12月14日  
大賞を受賞したオムロン太陽の大前浩一社長（左）ら。銅像は創業者の故・立石一真氏＝別府市

厚生労働省が主催する「グッドキャリア企業アワード2017」で、別府市のオムロン太陽（大前浩一代表取締役社長）が大賞を受賞した。障害の有無にかかわらず、個々の従業員に寄り添った成長を支援する取り組みが評価された。

全国から53社の応募があり、同社を含めて4社が大賞に選ばれ、11月に東京都内で表彰式があった。

電気機械器具製造業の同社は障害者を積極的に雇用しており、従業員64人のうち、31人が身体や精神に障害がある人。審査では▽障害の有無に関係なく、全ての従業員に同じ研修の機会を提供▽2013年から有期契約社員の正社員転換を実施し、障害の状態に合わせた仕事をするための社員等級を新設一などの取り組みが高く評価された。

中でも15年から有能なリーダー候補を対象に「ネクストリーダー研修」（2年間）を実施しているのが特長。一昨年は8人（うち障害者4人）、昨年は7人（同2人）が参加。昨年からは聴覚障害者も対象となり、講師が手話や筆談を交えた研修をしている。

同社は1972年、太陽の家創設者の故・中村裕博士と立石電機（現オムロン）創業者の故・立石一真氏が共鳴し、障害者が働く国内初の共同出資会社として創業。オムロンの企業理念の一つである「人間性の尊重」を大切にしてきた。大前社長は「今後も障害に関係なく、お互いを理解できるための支援を続けていく」と話した。

## 問題集点訳で障害者応援 彦根拠点のボランティアサークル「ぼちぼち会」



中日新聞 2017年12月14日  
例会で打ち合わせをするメンバーら＝彦根市の県立盲学校で

彦根市を拠点に小中学生や高校生向けの参考書、問題集を点訳しているボランティアサークル「ぼちぼち会」の活動が28年目に入った。点訳の参考書や問題集はほとんど市販されていないのが現状。学力アップや高校、大学への進学を目指す全盲の視覚障害者にとっては力強い応援団だ。

会員は彦根や大津、長浜市など、八市町の三十二人。主婦など五、六十代の女性が多く、全員が彦根市の県立盲学校で毎年開かれる開放講座「点字の世界」の受講生だ。

会員は毎月第一、第三土曜に同校に集まって例会を開く。情報交換のほか、元同校教師で、開放講座の講師も務める会の顧問、小山信行さん（68）＝彦根市＝が中心となって、経験の浅い会員を指導、全体のレベルアップを図っている。

点字は、紙面の突起した点を一定の方式で組み合わせた文字。視覚障害者は、点字を指先で触れて情報を得る。会員は、参考書や問題集の文字や図をパソコンで点訳してデータ化。最後に、小山さん同様、元同校教師で、会の顧問を務める宮城教育大の長尾博教授（59）が確認し、自身のホームページ「ムツボシくんの点字の部屋」にアップする。誰でもダウンロードでき、利用できる。

今年は、中学部の理科、数学、社会、国語の問題集や、高校生物の問題集を点訳。「生物の問題集の点訳は学習内容が難しく、苦勞した」。長浜市の保育士、田淵まり子さん（56）はそう振り返り、「大学に合格できたと生徒から連絡をもらったときはうれしかった」とほほえむ。

近江八幡市の主婦、竹岡立子さん（63）も「視覚障害者が図を理解しやすいよう点字で表現するのは難しい。問題集を使った生徒に喜んでもらえるから頑張れる」と話した。

「学校では問題集や参考書の点訳までできないので、とても助かっている」と感謝するのは盲学校中学部の内山亜紀教諭（47）。

長尾教授も「図形が入ったものを点訳するグループは全国的にも珍しい。熟練者と初心者が互いに高め合い三十年近く高いレベルを維持できている」と評価する。会の栗本正弘会長（64）＝彦根市＝は「長く続けていくためにも人材の裾野を広げ無理せず楽しく取り組みたい」と話していた。（前嶋英則）

## パラアート受賞作を発表

日本経済新聞 2017年12月13日

一般社団法人「障がい者自立推進機構」（東京・港）は13日、障害者によるアートコンテスト「SOMPOパラリンアートカップ」の受賞作を発表した。応募758点からグランプリにカミジョウミカさんの「みんなでなかよくサッカーしよう」が選ばれた。

障害者の自立と障害者アートの認知度アップを目指すコンテストで、2回目の今回はサッカーとバスケットボールをテーマとした。日本プロサッカー選手会、日本バスケットボール選手会が協力し、元サッカー日本代表の北沢豪さん、絵本作家の宮西達也さんらが審査した。

2018年1月11日から2月9日まで、日本経済新聞社東京本社2階で受賞作品が展示される。

## 障害者の手に職を…靴磨き会社を起業 龍谷大卒業生「チャレンジ精神身につけて」

産経新聞 2017年12月14日



「革靴をはいた猫」事務所で磨く障害者の職人（手前2人）。手に職をつけて働いている＝京都市伏見区

知的障害や精神障害のある若者の就労を支援しようと、龍谷大（京都市伏見区）の卒業生が靴磨き会社「革靴をはいた猫」を立ち上げた。「靴磨きを通じて自主性やチャレンジ精神を身につけてほしい」という願いが込められたもので、障害のある若者たちは職人として技術を身につけながら、収入を得るやりがいを感じている。

京都市伏見区の手信用金庫の支店。数人の「靴磨き職人」が革靴を手際よく磨いている。中度の知的障害がある藤井琢裕（たくひろ）さん（26）は「みんなと一緒に靴磨きをするのが楽しい。将来は靴磨きの店を持って店長として働きたい」と話す。

この出張サービスを提供するのが、今年3月に龍谷大を卒業した魚見航大（うおみ・こうた）さん（23）が立ち上げた「革靴をはいた猫」。伏見区内にある障害者就労移行支援施設に通う20代の男女6人が同社からの請負契約で仕事に携わる。

魚見さんが事業所などに営業をかけ、靴磨きの仕事を探し、まとまった需要があれば訪問。靴を預かり、会議やデスクワークの合間に磨き上げる。1足あたり千円で請け負い、職人は最低賃金に相当する工賃を受け取る。

魚見さんは学生時代、孤立する障害者や引きこもりの若者の就労を支援する学内の団体に所属し、同大深草キャンパスの「カフェ樹林（じゅろん）」で知的障害者や精神障害者と一緒に調理場やレジで働いていた。

「誰もが活躍できる社会を作りたい」。魚見さんは卒業後も障害者の就労支援に役立つことをしたいと考え、社会福祉法人の職員に相談。手に職がつき、収入が得られる仕事として靴磨きを勧められた。

そこで魚見さん自身が在学中、大阪の靴磨き専門店「バーニッシュ」（大阪市中央区）に弟子入り。1年かけてノウハウを身につけ、職人らにワックスや仕上げに使うウイスキーの使い方などの技術を教えた。

設立当初は赤字が続いたが、丁寧な仕事ぶりが評判を呼び、口コミを通じて依頼が増加。今では月に10回近く出張し、企業でまとめて預かった靴を持ち帰って磨くサービスも始める予定だ。

現在は請負契約で働いている職人たちも、生活の安定のため将来的には正社員として同社で雇用したいといい、魚見さんは「ゆくゆくは自分で営業をかけられるようにもなってほしい。靴磨きを通じて自主性やチャレンジ精神を身につけ、夢や目標を持つきっかけの場になればうれしい」と話した。

## 高齢者や障害者も希望の場所へ…外出を諦めないで

産経新聞 2017年12月14日

90代男性に同行する「介護トラベル」の丸直実社長＝2016年7月、新潟県内（提供写真）

■同行・介助の「介護トラベル」

高齢者や障害者に同行し、介助付きの旅行を提案する介護トラベル（東京）。丸（まる）直実社長（53）が平成27年に設立した。

旅行には資格を持つスタッフが同行して移動や食事を介助する。「『体が思うように動かさなくても、もう一度旅をしたい』という人の希望をかえ、諦めていた外出の機会を提供したい」と語る。

利用者は80～90代が中心で、娘など家族か



らの依頼も多い。90代女性の「戦争で生き別れた初恋の人に会いたい」という願いもかなえた。

去年は都内に1人で住み、車いすで生活する90代男性に同行した。「元気なうちに故郷で墓参りしたい」との希望で、新潟県の佐渡島に渡った。「10年ぶりの帰郷を喜んでもらうことができ、今年も同行した。『来年は北海道に行きたい』と、体を動かす練習に励む姿がうれしい」と話す。

要介護度など体の状態を本人や家族から聞き、主治医の許可を得た上で、場所や日程など希望に沿ったプランを作る。交通や宿泊費は同行者分も負担してもらう。症状に応じた時間ごとのサポート料金などが必要だ。

「費用はかかるが、介護する家族も一緒の場合、スタッフに介助を任せてゆっくりした時間を過ごせる」と話す。都内なら専用タクシーで自宅への送迎も可能だ。

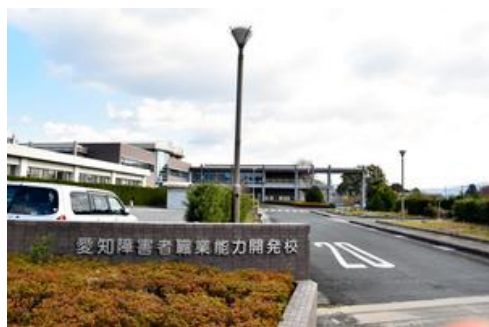
丸社長は、老人施設でのボランティアを機に介護福祉士などの資格を取得、約10年前から訪問介護の仕事をした。利用者から「車いすでの旅行は他の人に迷惑がかかる」「連れて行ってくれる人がいない」といった声を聞いて起業を決意した。自身も旅好きで「苦労もあるが、同行は楽しい」と話す。

散歩や外出など日常の外出に付きそう「手つなぎサポート」事業にも力を入れる。丸社長は「出掛けたいという前向きな気持ちに寄り添いたい」と話している。

## 性同一性障害「他の訓練生に知られた」 男子寮に入れず 宮沢崇志

朝日新聞 2017年12月14日

愛知障害者職業能力開発校＝愛知県豊川市一宮町



愛知県が運営する「愛知障害者職業能力開発校」（同県豊川市）で、戸籍上は女性だが男性として生活している訓練生（23）に対し、希望する男子寮ではなく女子寮への入寮を条件に入校を認めていたことがわかった。訓練生は「女子寮に入ること、性同一性障害について他の訓練生に知られることになった」と話している。

訓練生は、高校時代に性同一性障害との医師の診断を受け、裁判所へ改名を申請し認められた。卒業後に勤めた病院では男性として働いていた。昨年、筋ジストロフィーの症状が進行したため、病院を退職。1年制の職業訓練施設である同校に今年4月の入校を希望し、願書には既往症として性同一性障害を記入して、診断書も添えて出した。

同校には通校が難しい人向けに女子寮と男子寮がある。この訓練生は杖や車椅子を使って生活しており、通校が困難なため、男子寮への入寮を希望。入校許可の際、通校生として扱われていたため、問い合わせたところ、性同一性障害を理由に入寮を断られたという。

通校は難しいことを訴えた結果、戸籍上は女性となっていることから、女子寮なら受け入れられると学校側から提案され、いったん受け入れた。しかし、トイレで女性の訓練生と顔を合わせる気まずさなどから、入寮後も男子寮への移動を訴えたが、認められていない。

## 入所者の女性に乱暴罪で起訴の元施設職員に無罪判決 大阪地裁

産経新聞 2017年12月14日

福祉施設に入所していた40代女性に乱暴したとして、強姦罪に問われた元施設職員の30代男性に対する判決公判が13日、大阪地裁で開かれた。飯島健太郎裁判長は、「乱暴したとするには合理的な疑いが残る」として無罪（求刑懲役7年）を言い渡した。

男性は昨年8月、大阪府守口市内の福祉施設で、知的障害がある入所者の女性に乱暴したとして起訴された。

男性側は「合意があった」と無罪を主張していた。飯島裁判長は一方的に襲われたとする女性の供述について「変遷しており、十分な信用性があるとは到底いえない」と断じた。

## 発達、知的障害ある子向け「性」易しく解説した本出版 神戸新聞 2017年12月14日



「言葉が難しくても、絵を見ながら大切なことを感じてもらえたら」と話す永原郁子さん＝三木市立三木特別支援学校 障害のある子や親向けに、性について易しく解説した本

障害のため、人との適切な距離が分かりづらかったり、気持ちを抑えるのが難しかったりする子ども向けに「性」について易しく解説した



本「かっこよくいきる すてきにいきるための5つのお話」を、神戸市北区のマナ助産院院長、永原郁子さん（60）が出版した。発達障害や知的障害のある子どもが性被害に遭う事件は後を絶たず、望まない妊娠をするケースも。本は絵をたくさん使い「親しい人は腕の半分の距離」「下着を着けているところは大切なところ」などと説明。「自分や大切な人を守る気持ちを、親子や学校で一緒に考えるきっかけになれば」と話す。（広畑千春）

永原さんは1993年に助産院を開き出産や産後ケアに携わる傍ら、2000年に性教育グループ「いのち語り隊」をつくり、学校園など年間200カ所以上で活動。約7年前からは特別支援学校や障害者支援施設でも講演し、その内容を、本人や保護者からの意見や質問も交え、本にまとめることにした。

本は「人との距離のとり方」「からだの中で特に大切なところ（プライベートゾーン）」「人を好きになったときのルール」「結婚するための準備」「しあわせにいきる方法」の5部構成。最後に、男の子と女の子の事例も掲載した。

人との距離の取り方では「家族・親しい人」「知っている人」「全く知らない人」で適切なのは、それぞれ「腕の半分」「腕を伸ばして届く」「腕を伸ばしても届かない」ぐらいと説明。「知らない人に近づき過ぎたり、糸くずなどが気になって黙って体に触ったりすると驚かせてしまう」と注意を呼び掛ける。

さらに胸や下腹部など「下着を着けているところ」は「体の中でも特に大切な部分」とし、そこを触ろうとしたり、見せてほしいと言ったりする人は「危険」と教える。「好きになった人が、危険な人でないかどうか確かめて」などとアドバイスする。

本の内容を基に、各地で講演も行う。11月には三木市立三木特別支援学校で、市内外の教員や保護者ら約40人を前に「語りにくい性のことも伝えてほしい」と呼び掛けた。養護教諭の女性（33）は「大人になる過程で何を教えればいいのか、自分自身が考えておくことが大切と感じた」。ダウン症の長男（9）と訪れた女性（47）は「男の子だし、将来どう伝えたらいいか悩んでいたが、参考になった」と話した。

A5判、100ページ、1404円。ごま書房新社TEL03・3865・8641

